

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日: 8月7日(火)

会場: 十日市コミュニティセンター

参加者数: 33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>健康づくり推進計画27ページに平成22年と25年の達成目標の分析がされている。健康寿命が男性は若干伸びているが、女性が低くなっている。評価の分析はしているか。また、対策は考えているか。健康寿命の基準が国と違うので、国と合わせてはどうか。</p>	<p>健康寿命は、介護保険認定を受けていない人ということにしていた。健康づくり推進計画では、国の基準に統一化している。平成30年3月版は、国の基準にした。健康寿命の女性が低い原因は詳しく調べていない。</p>	<p>【回答補足】 後日、健康推進課長から健康寿命について説明させていただいた。(健康推進課)</p>
<p>上記、評価を分析する方法はないのか。国の基準と言われたが、納得できるような分析の仕方はないのか。</p>	<p>・これまでは、「元気高齢者」という表現の中で、介護認定を受けていない人の割合にしていた。今回の計算式は国の示すものである。「元気高齢者」の概念とは違う。</p> <p>・分析・検証は大切なことである。本年度から健康推進課長に保健師を配置した。また分析結果を何らかの形でお知らせできればと考えている。チャレンジデーでは、参加率が70%台を達成し、多くの市民の皆さんに参加していただいた。日常の運動教室等を重ねた結果だと思っている。健康志向へつなげたい。</p>	
<p>28年前にIターンで東京から来た。三次は魅力的で、持続的な経済生活活動ができる場所であると思っている。三次の中心市街地はコンパクトシティとして非常に整備されていると思う。しかし、周辺部との連携はどのようにしようとしているのか、市の動きが見えにくい。市民としては、具体的なイメージを出してもらわないとわからない。定住を重点計画で出されるのであれば、もっと具体的な目標を描いてほしい。市民がわかるような夢を事例として提示し、国内外に発信するという作業をもっとしてほしい。定住を促進する具体的な目標と、周辺部との関わりについて教えてほしい。具体的なイメージが必ず成功しなくても良い。毎年改定して、市民が理解できるような材料を提供してほしい。</p>	<p>・三次市は、拠点性を発揮したい。医療、働く場、買い物や交通の便などまちづくり全体が進んで初めて定住につながる。例えば医療は市立三次中央病院が拠点病院であり、周辺には診療所がある。70名を超すドクターを確保するのは難しいが、広島大学からドクターを確保している。周辺部の問題は確かにある。中心部と周辺部を同じようにすることは難しいし、コンパクトシティをめざしているわけではない。地域の拠点整備を、それぞれの地域で行っている。市民、地域が、主体的に将来のまちの姿をつくっていくものであると考えており、市が一方向的に考えを表した計画ではない。総合計画にしても、住民自治組織などにヒアリングをしたり、市民まちづくり塾の中で市民の方に出席していただき、議論していただいている。そういうものの積み重ねでできている。</p> <p>・第2次三次市総合計画で、転入者数と転出者数が均衡になるようめざすことにしている。人口社会増はどの地域もめざしている。19地区の住民自治組織のそれぞれの取組も、発信しながら一緒にやっていく。それぞれの地域がどう元気にやっていくか、そしてUターンを促すかを地域と一緒に考えている。</p> <p>・東京一極集中の風が今、変わりつつある。19地区の住民自治組織の中では、人口社会増の地域も生まれてきている。人口自然減については、今、解決の目処がたっていない。長生きをしていただきたいのもひとつである。行政と、住民のみなさんの総合力が必要であり、地域の皆さんには、学校現場でもふるさと教育を推進して、三次の良さを子どもたちに教え続けてほしい。また、「かえろうコール」など、地域へ帰ろうや、という気持ちを伝える活発な取組をしていただいている。三次市は高速道路や国道など、道路ネットワークに恵まれており、中国やまなみ街道など、4つのインターチェンジがある。生活最優先都市をめざすことが重要であり、拠点性・利便性をいかしたまちづくりを行うことで、長い目で見て、三次は生き残れると思っている。小児救急医療は、広島市と福山市の他には、三次市にしかないものであり、これは三次市の大きな財産である。ワインは国内外のコンクールに入賞し続けている。総観光客数は、中国やまなみ街道開通後、減少すると思ったが、3年間、少しずつではあるが増えてきており、ポジティブに考えていく材料であると思う。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日: 8月7日(火)

会場: 十日市コミュニティセンター

参加者数: 33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>みよしアグリパークなどの交流人口を増やす計画について、リピーターがどこまで確保できるかが重要であると思う。みよしアグリパークのことが見えてこない。三次市がいろんな計画を出されるが、市民がイメージできるようなデータ、目標値、波及効果など、具体的な広報の仕方、計画の立て方をしてほしい。</p>	<p>みよしアグリパークは、構想段階である。目標やデータは今は示せないが、総合計画の中で、農業を基幹産業と位置付けているので、担い手の育成や販路拡大など、観光と連携し、総合的に実施することを考えている。ピオーネ団地、備北南部農道、広島三次ワイナリーなど酒屋地区と農業を連携させていく。</p>	
<p>学校給食について、現在13の施設と7つのデリバリーに再編されると聞いた。6月の市議会を見れなかったので、確認したい。 このたびの再編計画は個人的に反対ではない。子どもたちにおいしく安全な給食が提供してもらえれば良いと考えているが、アレルギーが問題であると思う。十日市でも、徹底的に排除している。食材を仕入れる工場も、そのアレルギー食材を、隣のラインで扱っているような工場からは入れていない。PTC行事でも、おやつを食べていたが、それも廃止している。たった一人のために、徹底している。酒屋町には4千人規模の給食センターができると聞いた。たった一人のために、アレルギーの食材を使わない、ということ徹底してほしい。</p>	<p>・学校給食調理場再編については、市内の子どもたちに同じものを届けたい、学校給食で補いたいという思いがある。現在、アレルギーのある子どもについては、医師から指示書を保護者にとりいただき、それに基づき、検討し、給食をお届けしている。アレルギー物質は除去していくことを考えている。通常の食事を作るラインと、除去対応とは、別の部屋で行わなければならない。完全に除去できるか、これから細かく確認しながら進めていく。 ・調理場が老朽化しており、水害で浸水するかもしれないことを考え、重大な関心を持って進めていくこととしている。</p>	
<p>先日の豪雨で、地区内で9軒、床下浸水した。排水の問題だと思うので検討してほしい。また、避難したが避難所がまだ開設されていなかったと聞いた。コミュニティセンターが遠いので、小学校などに避難した人もいたと聞いた。市民が早く避難できる方法を検討すべきである。</p>	<p>大規模氾濫時を、国、県とともに想定している。今回の豪雨を教訓に、課題意識をもって、具体的に避難情報の発信の仕方、避難所の確保等考えていかなければならないと思っている。災害拠点病院である市立三次中央病院のある酒屋エリアを拠点に、避難について考える必要がある。市民の皆さんと話し合いながら、中心市街地の命をいかに守るか、考えていきたい。また、建物の3階以上へ逃げるといことが重要であり、現在、公共の建物7箇所のほか、民間の建物7箇所と、協定を結んでいる。</p>	
<p>災害について、避難所に指定されている場所は、浸水すると避難できない。酒屋では、車ごと避難された人が多かったと聞いた。私も車に商品や載せ、避難した。十日市が浸かるとなると、十日市地区の避難所が使えない。早い時間に、酒屋方面へ車ごと避難するのが良いと考える。みよしアグリパークには、避難場所になるように、とにかく広い駐車場を備えてほしい。それに伴い、上水道、トイレについては、外付けで使えるものを整備すべきである。1週間くらいであれば、なんとかかなるのではないかと。また、酒屋への道路は2本しかない。ロイヤルホテルの前は冠水していたので、早い時間の避難が必要になる。大渋滞になる前に、早めの避難を促してほしい。</p>	<p>十日市地区には9か所の避難所があり、同時に開けるのが困難だった。避難所の開設は、職員体制や災害規模により決定している。今回の7月豪雨では、市内全域で37か所の避難所を開設した。7月6日16時に避難勧告を発令し、住民自治組織、自治防災組織ごと、1箇所ずつ、コミュニティセンターを中心に避難所を開設した。大雨特別警報により、19時50分に避難指示を発令した。19の避難所では足りないもので、学校や公共施設を避難所として追加で指定して開設した。避難所が開いていなかったというのは時間的な問題もあったと思うが、避難勧告、避難指示のタイミングや、情報発信のあり方が課題であったと考えている。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日: 8月7日(火)

会場: 十日市コミュニティセンター

参加者数: 33人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>国土交通省三次河川国道事務所や気象庁のデータを見て、各々で判断している。平成30年度に三次市地域防災計画の改訂版が出ている。避難勧告や指示が出る時の周知方法が載っているが、サイレンや半鐘(はんしょう)が載っている。十日市は、サイレンを鳴らすことができる。あるものは有効に使ってほしい。そのほかの周知方法が色々あるが、その方法が周知されていなかった。十日市についてはどういう形で知らせる、というのを教えてほしい。</p>	<p>サイレンについては、今回の問題点のひとつとして検討したい。十日市のみならず、誰がどのように操作するかも含めて、サイレンで周知できるのか検討したい。</p>	
<p>河川敷グラウンドの整備が今日から始まっている。クラブ活動が早いうちに再開できそうで感謝している。しかし、スポーツ少年団、野球はまだ練習ができない。場所を変えたり、手法をかえたりして練習している。物理的な問題として、グラウンドだけでなく、機材が必要なスポーツもある。練習のため、遠方のグラウンドへ自転車で移動している部もある。危険であり心配している。今後の対策をお願いしたい。</p>	<p>十日市親水公園は、応急処置を国土交通省三次河川国道事務所と対応している。全体がすぐに復旧とはならず、大きな予算を伴う。災害復旧になるかどうかは、国土交通省内で上部機関と交渉中である。農地や林道の復旧をするには査定を乗り越えないといけない。査定をするにもコンサルタントが不足している現実があり、苦慮しているところである。現在は応急的な対応をしている。</p>	
<p>自主防災組織のメンバーは260名程度で、住民の約4%である。住民は、なかなか避難してこない。周知の方法として、サイレンを使ってほしい。熊野町長は、サイレンにすると断言していた。また、7月豪雨の際、避難所には厚生部の救護班が5人来たが、到底間に合わず、受付もごったがえしていたため、自主防災員にも来ていただくよう要請した。このような時に、自主防災員に怪我や死亡のケースがあった場合の身分保障はどうするのか。応援はするが、大きな課題があると思う。</p>	<p>(時間の関係上、その場で回答ができず。)</p>	<p>【回答】 平成30年7月豪雨を受け、避難情報等の情報伝達や避難所の運営については、課題があると捉えている。情報伝達については、多様な手段を用いて行うよう準備を進めている。サイレンを使用している自治体もあるが、大雨の中では聞こえないとの結果報告もあるため、慎重な検討が必要であると考えている。また、避難所の運営については、自主防災組織との連携が必要なので、今後、十分協議をさせていただきたい。防災員の保障については、保険会社等に問い合わせるなど、その結果を踏まえて改めて協議させていただきたい。(危機管理課)</p>
<p>自主防災員については、市議会の一般質問でも2回ほど議論されており、総務部長が検討すると答えられている。その後どうなっているのか確認をお願いしたい。</p>		<p>【回答】 保険会社から、「全国的に災害が発生していることから、新しい契約内容を検討している。」と伺っている。それも踏まえて検討中である。(危機管理課)</p>